JAPAN CREATIVITY SOCIETY
日本創造学会
JCS NEWSLETTER

第39回日本創造学会研究大会を終えて

「イノベーションと創造性」

～アイデアをいかにイノベーションにつなげるべきか！？～

前野隆司実行委員長

秋晴れの2017年9月9日（土）～10日（日）に、慶應義塾大学日吉キャンパス来往舎にて、第39回日本創造学会研究大会を開催いたしました。大会テーマは、「イノベーションと創造性 ～アイデアをいかにイノベーションにつなげるべきか！？～」です。参加者数は過去最大の172名（会員68名、非会員104名）、発表数は48件という、大盛況の大会となりました。学会参加や発表を機会に新規入会された方の数も21名と、学会全体の活性化にも大きく寄与しました。さらに、予定を超える参加者数であったことから、資金面でも大変成功を収めることができました。ご参加いただいた皆様、ご協力いただいた皆様、どうもありがとうございました。

日本創造学会は、1979年の創立以来、組織や社会の創造性を育成するために、様々な創造技法開発など、創造性に関する学術研究分野をリードしてきました。近年では、単にアイデアを出すだけではなく、出てきた斬新なアイデアをいかに革新的・破壊的イノベーションにつなげるかが問われつつあります。このため、今年度の大会の基調講演やパネルディスカッションでは、具体的にアイデアをイノベーションにつなげてきたデザイナーや実践家・研究者の方にお集まり頂き次代をいかに創造すべきかについての分野横断型の議論を深めました。

基調講演はお二人の方にお願いしました。濱口秀司氏（Ziba Executive Fellow, Monogoto CEO）には、「創造とコラボレーション」と題してご講演いただきました。最近のデザイン思考や協創の潮流であるコラボレーションをあえて否定し、個人個人が「break the bias」することの重要性を説いた大変示唆に富む講演でした。紺野登先生（多摩大学教授）には、「目的工学と創造性」と題した基調講演をお願いしました。目的や倫理観を明確にした広い視野からのオープンイノベーションの重要性についての格調高いお話をしていただきました。

基調講演1の濱口秀司氏

基調講演2の紺野登氏

満席の講演会場

パネルディスカッションでは、著名なデザイナー3名にご登場いただき、デザインと創造性についての活発な議論を行いました。登壇者は、田子學氏（MTDO Inc.）、太刀川瑛弼氏（nosigner事務所）、中村勇吾氏（デザイナー）の3名です。いいデザインと悪いデザインをいかに見分けるか、いいデザインをいかにブラッシュアップするか、などの根本的な議論が盛り上がり、創造学の研究者・実践者にとって極めて学びの多いパネルディスカッションとなりました。

（次ページにつづく）

パネルディスカッション風景
左より、モデレーター白坂成功氏
パネリストの田子學氏、太刀川瑛弼氏、中村勇吾氏

超満員のパネル会場

発表も多彩であり、書道の実践があったり、皆が立ち上がって創造技法を体験したりと、様々な発表が3部屋の会場で繰り広げられました。非会員の参加者には若い者も多く、極めて勢いの感じられる大会となりました。

最後の閉会の挨拶では、実行委員長を拝命した私の挨拶の後に、来年度国際会議兼研究大会を大阪で行われる徐先生からの挨拶も行われました。今年度の勢いが来年度の大会にも引き継がれ、創造学が日本と世界のイノベーションの進展を担う核となることを願ってやみません。

★★学会賞授賞式★★

2017年9月9日第39回研究大会開催時に行われた会員総会会場にて、学会賞を受賞された方の表彰式が行われ、田村理事長より表彰状と記念品が送られました。

【日本創造学会論文賞】

2016年度論文誌Vol.20論文賞
國友 尚氏・前野隆司氏

論文タイトル：
アソビジョン・クエスト ー遊びの感動根源探求に基づく自分軸構築法ー

2016年度論文誌Vol.20論文賞
池田和浩氏・西浦和樹氏・川﨑弥生氏

論文タイトル：
個人特性を媒介したほめ言葉と共行動の効果の検討

【研究大会発表賞】

第38回研究大会発表賞
石井力重氏

発表タイトル：
アイデアを書くため専用のメモ用紙「猫の手」

第38回研究大会発表賞
三原康司氏

発表タイトル：
イノベーション創出思考法 ー隠れたニーズと新たなシーズをマッチングする思考展開法ー

【著作賞】

2015－2016年出版 著作賞
共著・翻訳部門 西浦和樹氏

著作タイトル：
北欧スウェーデン発 森の教室-生きる知恵と喜びを生み出すアウトドア教育

2015－2016年出版 著作賞
共著・学術部門 林義樹氏
（写真は共著者の平山隆浩氏）

著作タイトル：
ラベルワークで進める参画型教育 学び手の発想を活かすアクティブラーニングの理論・方法・実践

▲▼▲ 10月14日第51回クリエイティブサロン開催報告▲▼▲

第51回クリエイティブサロンは東北文化学園大学（仙台）で開催されました。

2017年10月14日、仙台の国見の丘に位置する東北文化学園大学にて第51回クリエイティブサロンが地方で初めて開催された。東北地方の教育学部の学生を含め、高校・大学の先生方など参加者は、合計57名であった。筆者は幹事として東北文化学園大学の共催、会場の確保、学内ポスター作りや案内掲示などを担当した。「アクティブ・ラーニング」に関する創造性教育研究の最前線と題して「主体的、対話的、深い学びを学修する」ための講演会・ワークショップを行った。東北文化学園大学学長も最後まで参加され、多くの参加者に面白かったと言っていただけたこと、何よりも無事終了できたことが喜びであった。

具体的にはアクティブ・ラーニング推進者のトップランナーとしてご活躍されている岩手県立花巻北高等学校校長の下町壽男先生、アイデア創出トップリーダのアイデアプラントの石井力重先生と、川喜田二郎先生「移動大学」の継承者 JAIST國藤進先生が東北文化学園大学にご参集され、講演およびワークショップが行われた。なお石井ワークショップの成果は、アイデアプラントのHPに公開されている。今後、今回のような地方開催のサロン成功事例が続出し、日本全国に展開できることを期待したい。

最後に、最初の企画段階から最後まで細部に亘りご指導を頂いた國藤理事と事務局の比嘉さんをはじめ、各地から駆けつけてくれた日本創造学会の関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

（記事：小出実）

下町壽男先生のご講演の概要
「育みたい生徒像に基づいた学校ぐるみですすめるアクティブ・ラーニング」

教育現場の中では、進学校を中心に大学受験のための教育と学習が中心に行われている中、高校生の教育のあるべき姿が問われています。「アクティブ・ラーニング」というテーマが与えられ、「主体的で対話的で深い学び」という教育方法が実践されている状況で、「なぜ、アクティブ・ラーニングなのか」という問題提起から始まりました。教科教育のような断片化された知識を教育しても、生徒には響かないことを将棋の対局を例に話していただきました。確かに、将棋の一手「矢倉囲い」のような盤面はイメージして記憶しやすい反面、羽生名人であってもアマのでたらめな盤面は浮かばないと言われているように、局面によってはイメージして記憶できません。生徒が経験したことをイメージとして思い浮かべやすい状況を作り出してから学習しなければ、学習成果が期待できないことの例でした。他にも、夢や目標の設定の仕方が教育には欠かせないことも経験として理解できる点でした。

下町壽男先生の講演

石井力重先生のワークショップ

國藤進先生の講演

石井力重先生のワークショップの概要

アイデアワークショップを得意とされる石井先生からは、「主体的、対話的、深い学習を達成するための方策」を、参加者からのアイデアとして引き出そうとするものでした。アイデアスケッチという方法を使って、絵心のない人でも簡単に絵を描くヒントをいただきました。さて、本題のアクティブ・ラーニングに関するアイデアが会場から出てきました。「古典落語を学びに生かす」「今日の授業をブログにする」といったアイデアは、実際の授業で生かされるものと期待しています。

國藤進先生のフィールドワーク教育の概要

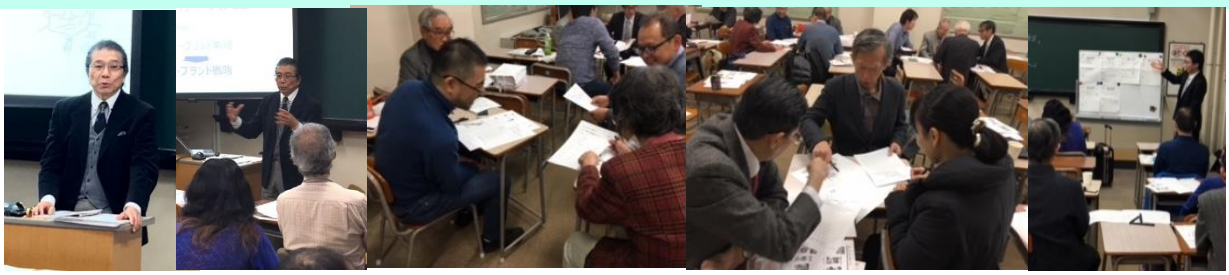
「ミニ移動大学」は、W型問題解決学という方法論とKJ発想法を取り入れたもので、4日間の集中フィールドワークを中心にした地域創生プロジェクトの中で活用されています。今回は、フィールドワーク教育の成功要因について、事前準備や事後フォローアップのヒントをいただきました。また、大学院教育での実践例で、「住民の意識改革」「創造的問題解決の方法を学ぶ」といったことだけでなく、「高いデザイン思考」が教育効果をもたらした例として「夢醸」「もちもちカステラ」「イノシシ・レザー」の商品開発例をご紹介いただきました。

（記事：西浦和樹）

▲▼▲ 11月18日第52回クリエイティブサロン開催報告 於：東京海洋大学▲▼▲

講演会：『ネーミング開発会社のネーミング開発の進め方』

講演者：高橋 誠氏　㈱創造開発研究所代表・博士（教育学）日本創造学会理事、日本教育大学院大学名誉教授



今回、クリサロで「ネーミング開発」ついてお話ししました。どうゆうわけか最近、ネーミングやブランドの話をする機会がとても多いのです。10月は大学関係者約80名に「大学のブランド戦略」、11月には広告関係者120人に「ネーミング開発」を話しました。創造学会の関係者の方々は、ネーミングやブランドについて必ずしも関心が高いわけではないと思いますが、皆さん大変熱心にお聞きいただき、ワークも真剣に取り組んでいただきました。当日は講義とワークショップを行いました。講義の概要は、以下です。

1．わが社の紹介：東京初のネーミング開発会社

私のライフワークは、創造技法の研究と実践です。この創造性実践の1つが「ネーミングの開発」です。私はネーミング開発の「Name Land™システム」を考えました。これは、ネーミングの課題設定から、発想、評価、商標調査、商標登録までの全プロセスを推進する仕組みです。わが社（株）創造開発研究所は、ネーミング開発の仕事を1983年開始。大阪に1年前に出来たネーミング会社がありますので、東京初の会社と名乗っています。

わが社がつけた名前は、社名から商品・サービス名など約300あります。代表的なものは、ゆうパック、かもめーる、TOSTEM、BIG EGG、メルパルク、Teny、プラズマX、たまプラーザテラス、くるりんポイ排水溝、ハルメク、アトファイン等です。

2．講義と演習：ネーミング開発の実際と進め方

講演とワークショップの内容は、以下です。

1．ネーミングがいかに大切か、2．ネーミング開発の進め方、3．創研ネーミング7技法、4．ネーミングを良いブランドにする、5．創造開発研究所のブランド開発、6．ネーミング発想演習

最後の「ネーミング発想演習」のテーマは「新しい天ぷら粉」です。皆様から多くのアイデアを出していただきました。このテーマはわが社の案件ですので、皆様のご了解をいただき、「アイデアはいただきます」。どうもありがとうございました。

（記事 高橋誠）

講演会：『目からウロコの社会学デザイン with W.S.』

講演者：高橋美江氏　グラフィックデザイナー、イラストレーター、絵地図師・散歩屋

さぁさ『ミエさん劇場』の始まり始まリィ～　【起】イントロは、来場者との距離を縮めるヒッカケの席替え。「只券のS席があれば欲しいよね！」に同調した後方座席の参加者に、前の方のS席が空いているからと移動していただく。距離感は情報伝達でも重要な要素なので、まずは環境整備だ。次に“つかみ”にはいるところWS…脳みそ白紙状態でA3用紙に日本地図と都道府県名を書いてもらう。皆さん苦労してたね。講評はあとにしてだまし絵に入る。1枚の絵が2通り3通りに見える謎解きに、参加者はパズルを解くように楽しくだまし絵にはまっていく。そして最後に、実はだまし絵は物事を多面的に見る手法であり、まちを多角的に観ることに通じると着地点を示唆。　【承】絵地図と散歩の話。日本人の生活感をハレ（非日常）とケ（日常）で表した民俗学者・柳田國男の考えをまちに応用した“お散歩民俗学”は私の絵地図や町歩きの基本。絵地図では可視化（＝ビジュアル化）で、多くの人との共通言語が得えられる。5w1hのhowだ。howを失敗したら5wは意味ないジャ～ン。まちのレイヤーの深部で得たケ情報はお宝。毎月7～10講座（200人）をまちに案内するには、このお宝や“人たらし”で味方につけた地元民が強力なサポートをしてくれる。only oneは強し！　一般地図の正確さがイコール伝わるとは限らない。人の懐のストライクゾーンに飛び入るアナログ地図の表現が勝つことも多し。　【転】WSの日本地図の講評。社会科の地図と図工の地図の大きな流れを認識。AKB48が描いた奇妙な絵地図で盛り上がる。実際の絵地図を手に取ってみてもらう。画像投影も可能だが、そんな無粋なことを江戸っ子はしないよ。手に持って五感で感じることが大事。ミウラ折りも体験。　【結】今回初めて葬送の話もした。絵地図、まち歩き、葬送、すべての根底に流れるのは“デザインのココロ”。毎回の講演は「情報と表現」の実践のステージ。えっ、名刺に書かれた「真面目に不良」のココロは何かって？　ウフフ…。

（記事 高橋美江）

エッフェル塔

Lubart教授と

Marechal会長と

第１２回ヨーロッパイノベーションとアントプレナーシップ会議について　会長 徐　方啓

第12回ヨーロッパイノベーションとアントプレナーシップ会議（ECIE2017）は、去る9月21－22日にフランスのパリで行われました。

同会議はイギリスの国際会議と出版をビジネスにするACPI社が主催し、ヨーロッパ各国で持ちまわって開催します。今回のホスト役はパリにあるノバンシアビジネススクールでした。ヨーロッパを始め、世界43カ国138人が集まり、基調講演2本（主催校のThierry Rayna教授とオーストラリア連合大学のJerry Courvisanos准教授）、論文94本とその他の発表14本がありました。私は「Thinking about the Roots of Design Think」という論文を口頭発表しました。近年、デザイン思考は世界中で流行っており、この話題に関心をもつ学者と実務者が増えています。時代の流れに合うテーマなので、30人の教室は満員になりました。筆者は毎年創造性とイノベーション関連の国際会議で口頭発表をしますが、今回のようなケースは初めてでした。

実は、今度のフランスの旅について、もう一つの目的がありました。それは、フランスの創造性学者と交流を深めたいということです。

まず、フランスデカルト大学（パリ第五大学）心理学部のTodd Lubart教授を訪れました。彼は、Robert J. Sternberg教授の弟子で、現在同大学で創造性研究を専攻する博士を多く育成し、フランスにおける創造性研究の第一人者と言えます。同教授のご好意で私は教員・院生に向けて「日本における創造性開発」を1時間講演しました。

一方、フランス創造学会会長を務めるEdouard L. Marechal氏は、朝早く私が泊まるホテルに来られました。朝食をしながら、同学会の活動および来年大阪で行われる国際会議について1時間半話し合いました。彼は、実務家でコンサルタントとしてフランスとイタリアで活躍しておられます。

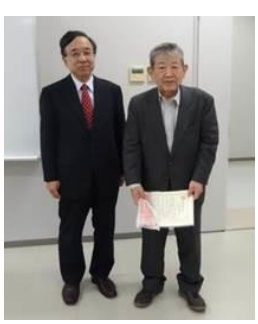
会議の後、パリの観光名所を回ったのは本当に楽しかったが、時間があまりなかったので、代表的なところだけ満喫しました。

追悼：上田宏さん　大流行した自撮り棒の発明者

評議員：片岡敏光

「自撮り棒」の発明者、ミノルタカメラ出身で日本創造学会会員の上田宏さんが、第39回研究大会の前日9月8日に77歳で逝去されました。

「イノベーションのキーパーソンの気質研究」の共同研究者として一緒に研究大会に参加される予定でした。上田さんは、第37回研究大会で「自撮り棒の発明」について発表され、研究大会発表賞特別貢献賞を受賞なさいました。大流行した自撮り棒の発明者は誰かと韓国BSテレビ局が調査し、上田さんのカメラ関係300件あまりの発明の1件として33年前に発明していたことが判明、この報道が発端となり、世界25大発明とタイム紙が報道するなど一躍有名になられました。私が上田さんと出会ったのは1997年頃でTRIZがご縁でした。二人とも2002年にTRIZ専門会社の設立に参画し、前後して日本創造学会に入会、以来TRIZに関する研究発表をなさり、母校静岡大の客員教授、等価変換創造学会の指導者としても、創造性、発明、特許についてご熱心に指導なさいました。ご冥福をお祈り致します。


2016年授賞式での上田さん（右）と櫻井理事長（当時）

自作の自撮り棒でデモンストレーションする上田さん

上田さんが自撮り棒を発明したきっかけは、奥様とヨーロッパを旅行した時、２人が一緒に写った記念写真を残したいと思ったが、誰もシャッターを押してくれなかった。パリのルーブル美術館では、カメラのシャッターを押してくれると言った子供にカメラを渡したら、その子がカメラを持ち去ってしまった。そのため、上田氏は様々な工夫と思案の末に、三脚に伸縮可能な棒をねじで固定して取り付ける自撮り棒を発明した。

新入会員紹介

氏名	会員種	所属	住所	専門分野
成松秀夫	正会員	㈱日立製作所	大阪府	プロジェクトマネージメント

○●●会員の書籍紹介○●●

人間解放の創造的学習
能村幸彦著　発行所：学研プラス　130頁　価格1080円（税込み）

大学卒業後、民間企業のシステム・エンジニアを経て、教育現場へ身を投じ、神奈川県の公立小学校で29年にわたり、創造力を伸ばす「発明学習システム」の研究・実践を行ってきた著者が10年の執筆期間をかけてまとめあげた「創造的学習」の指南書。創造的学習の長期間にわたる教育実践と理論的研究の統合によって生まれた本。人間解放につながる創造的学習・探究的学習を根源的に考察し、実践的・総合的に展開しています。

▼▼▼　総会報告　▼▼▼

2017年9月9日、会員総会が開催され、2016年決算・事業報告、2017事業活動状況、2018年活動予定、2018年予算案などの項目について理事会より提案・報告され、会員の皆様の賛成多数で承認・可決しました。

2016年度収支

科目	予算額	実績額	備考
前年度繰越金	2,169,920	2,698,656	
会費収入	1,462,000	1,956,000	前年度未回収分 入会金・年会費 退会者納付分合算
その他収入	230,000	224,435	論文掲載料 論文誌販売収入等
合計	**3,861,920**	**4,879,091**	

科目	予算額	実績額	備考
大会費	500,000	297,445	202,555
会議費	90,000	89,300	700
研究会補助費	400,000	137,124	262,876
交通費	130,000	110,773	19,227
発送費	80,000	86,963	−6,963
学会誌	250,000	250,603	−603
ニューズレター・メディア	250,000	249,947	53
事務局費	350,000	348,852	1,148
名簿規約管理費	200,000	199,450	550
HP管理費	110,000	108,864	1,136
事務所設備費	120,000	120,000	0
学会賞準備費	30,000	20,444	9,556
電話使用料	40,000	22,897	17,103
国際会議準備費	200,000	0	200,000
関西支部活動費	200,000	1,970	198,030
予備費	911,920	86,886	825,034
支出合計	**3,861,920**	**2,131,518**	

	収入額	支出額	繰越額
収支	**4,879,091**	**2,131,518**	**2,747,573**

2018年度予算

収 入		支 出	
2017年度繰越分（監査未終了概	¥2,424,573	大会費	¥500,000
		会議費	¥90,000
会費収入　（会員数からの概算）		研究会補助費	¥420,000
内訳		交通費	¥130,000
正会員209人×10000円×75%	¥1,567,500	発送費	¥80,000
学生会員28人×5000円×75%	¥105,000	学会誌	¥280,000
海外会員6人×5000円×75% ※納付率向上につき75%で算出	¥22,500	NL・メディア作成費	¥250,000
		事務局費	¥350,000
新入会者入会金約15名分 （2000×10、1000×5）	¥25,000	名簿・デジタルデータ類管理費 （規約、名簿、会費収納簿、ITｱﾄﾞﾚｽ等管理）	¥200,000
		ホームページ管理費	¥110,000
論文掲載料	¥180,000	事務所設備費 （光熱費、OA機器保守費、事務所使用費	¥120,000
販売等雑収入 ※論文Web公開予定のため販売収入減見込	¥10,000	学会賞準備費	¥30,000
		電話使用料	¥30,000
		国際会議準備費（4年分繰越金含む）	¥1,000,000
		予備費	¥744,573
	¥4,334,573		¥4,334,573

※予算収入欄の2017年度からの繰越額は年度途中のため概算です。
2018年度会費収入については2017年現時点での会員数に基づいた概算です。
2018年度論文掲載料・雑収入については2017年度実績に基づいた概算です。

事務局メッセージ

慶応大学日吉キャンパスで開催された本年度大会は創造学会史上最高の参加者数でした。研究大会をきっかけとして、多くの皆様にご入会いただけたのも大きな収穫でした。第40回を迎える来年の大会名は、「International Conference on Creativity and Innovation (ICCI2018)」国際会議として開催されます。内容については学会HP・NLでお知らせいたします。　（事務局：比嘉）

日本創造学会 ニューズレター
2017年11月発行（4№）
日本創造学会事務局
発行人 ：田村新吾
編集担当：比嘉由佳里
〒272-0015 千葉県市川市平田
1－10－2
Tel 080－3465－6152
Fax 047－718－1747
e-mail：jcs-info@japancreativity.jp